

令和8 年度 授業計画(シラバス)

学 科	薬業科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	衛生化学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期 金曜2時限	教室名	
担 当 教 員	三木 紳一郎	実務経験とその関連資格	大学卒業後、大阪市役所の医療系行政職員(薬剤師)として、薬務・食品衛生・環境衛生などの衛生行政に携わった。その後、大手前栄養学院及び大手前大学の教授として、管理栄養士・看護師などの養成教育及び関連研究を行った。			
《授業科目における学習内容》						
「衛生化学」とは、ヒトの健全な生活を確保し、病気を予防するため、食品及び環境中のあらゆる物質や事象とヒトとの関わりを探究する幅広い学問分野です。日常生活に密着した分野であり、医薬品等に関連する職業に就くうえにおいて、特に修得しておくべきと考えられる事項について重点的に説明するとともに、実践的な内容も含めて講義を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験70%、復習テスト20%(不定期に実施)、平常評価10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:シンプル衛生公衆衛生学2026年版 小山 洋(監修)辻 一郎、上島 通浩(編集) 南江堂						
《授業外における学習方法》						
授業後、授業の到達目標を念頭に、配布資料及び教科書等により復習をする。また、日常生活において、授業中に学習した内容を有効に活用できるよう思考する習慣をつける。						
《履修に当たっての留意点》						
衛生化学は、皆さんが今後、就かれる各業務及び日常生活においても重要なものとなりますので、基礎からよく理解し活用できるように履修してください。また、配布資料及び教科書以外でも、新聞やインターネット等の関連情報も収集してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	近年いわゆる健康食品がブームとなっているが、当該制度内容を把握し、その安全性と有効性の確保について理解する。	配布資料 教科書	・教科書: Chapter:6-9 Chapter:14-4など ・配布資料を熟読すること	
		各コマにおける授業予定	健康食品とは、国から一定の承認を得た保健機能食品(特定保健用食品・栄養機能食品・機能性表示食品)と未承認のいわゆる健康食品に分別される。これらについて詳細に解説する。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	衛生学・公衆衛生学序論として、健康の概念及び公衆衛生の概念について理解する。	配布資料 教科書	・教科書:Chapter1など ・配布資料を熟読すること	
		各コマにおける授業予定	(前回の復習)健康の定義、健康づくりと健康管理、公衆衛生の定義・公衆衛生の目標並びに公衆衛生の各事業の進め方などについて説明する。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	(その1)環境保健分野において、生態系と人々の生活、環境汚染と健康影響、環境衛生全般について、その概要を理解する。	配布資料 教科書	・教科書:Chapter6など ・配布資料を熟読すること	
		各コマにおける授業予定	(前回の復習)生態系と環境保全、地球規模の環境、典型7公害について、その概要を説明する。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	(その2)環境保健分野において、生態系と人々の生活、環境汚染と健康被害、環境衛生全般について、その概要を理解する。	配布資料 教科書	・教科書:Chapter6など ・配布資料を熟読すること	
		各コマにおける授業予定	(前回の復習)環境汚染と健康影響について、大気、水質及び土壌汚染などの規制内容や事例等について解説する。また、環境衛生の関わる規制内容や事例等について解説する。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	保健衛生行政について、行政組織の概要と関係する法規等に関して具体例も含めて理解する。	配布資料 教科書	・教科書:Chapter14など ・配布資料を熟読すること	
		各コマにおける授業予定	(前回の復習)保健衛生に関わる国の役所として、厚生労働省、環境省、文部科学省などの組織及び関係法規を解説するとともに、地方自治体の関係する組織及び衛生業務等について解説する。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	遺伝子組換え食品、放射線照射食品及びアレルギー食品の概要を知り、食の安全について考える。	配布資料 教科書	・教科書: Chapter6-9など ・配布資料を熟読すること
		各コマにおける授業予定	(前回の復習)①遺伝子組換え食品②放射線照射食品③アレルギー食品について、その概要及び実態などを解説する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	微生物(細菌、ウイルス、プリオンなど)の種類と各形態について、その概要を理解する。	配布資料 教科書	・教科書: Chapter6-2など ・配布資料を熟読すること
		各コマにおける授業予定	(前回の復習)①食中毒事件の傾向②微生物の種類③細菌の分類と構造④ウイルスの生態などについて、その概要を解説する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	微生物(特に細菌)の増殖条件及び殺菌方法について、その概要を理解する。	配布資料 教科書	・教科書: Chapter6-2など ・配布資料を熟読すること
		各コマにおける授業予定	(前回の復習)微生物増殖条件(増え方、水分活性、温度、酸素、浸透圧など)、殺菌方法(物理的方法、化学的方法など)を解説する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	微生物による食品の変質及び腐敗等について、その概要を理解する。	配布資料 教科書	・教科書: Chapter6など ・配布資料を熟読すること
		各コマにおける授業予定	(前回の復習)微生物等によるタンパク質や油脂の変質(腐敗)の概要と各判定方法を解説する。また、微生物の殺菌方法等や食品の変質防止方法を解説する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	「食中毒」の定義及び分類について、その概要を理解する。	配布資料 教科書	・教科書: Chapter6など ・配布資料を熟読すること
		各コマにおける授業予定	(前回の復習)食中毒の定義及び発生傾向について、解説する。また、食中毒の種類及び分類について、解説する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	(その1)食中毒の原因となる細菌及びウイルスについて、各々の性質及び主な症状等を理解する。	配布資料 教科書	・配布資料を熟読すること
		各コマにおける授業予定	(前回の復習)食中毒の原因となる細菌及びウイルスについて、中毒発生メカニズム、主な症状並びに防止方法等を解説する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	(その2)食中毒の原因となる細菌及びウイルスについて、各々の性質及び主な症状等を理解する。	配布資料 教科書	・配布資料を熟読すること
		各コマにおける授業予定	(前回の復習)食中毒の原因となる細菌及びウイルスについて、中毒発生メカニズム、主な症状並びに防止方法等を解説する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	(その3)食中毒の原因となる細菌及びウイルスについて、各々の性質及び主な症状等を理解する。	配布資料 教科書	・配布資料を熟読すること
		各コマにおける授業予定	(前回の復習)食中毒の原因となる細菌及びウイルスについて、中毒発生メカニズム、主な症状並びに防止方法等を解説する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康の前提条件である衛生的な住居は、健康的な生活に必須である。これに関わる規制等について、その概要を理解する。	配布資料 教科書	・教科書: Chapter6など ・配布資料を熟読すること
		各コマにおける授業予定	(前回の復習)建築物衛生法による屋内環境規制(基準や対策など)の概要を解説するとともに、その実態について説明する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期(1~14回)の講義内容について、その理解度を評価する。	配布資料 教科書	・配布資料及び教科書(関連カ所)について復習すること。
		各コマにおける授業予定	前期(1~14回)の講義内容について、その理解度を評価するため、まとめ試験を実施する。		